たそがれ剣舞

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
第　26　号
発行場所
高崎市石原町
高崎武道館内
発行責任者
剣道連盟　高崎支部
広報担当　上條
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年も穏やかで

2009年

高崎支部

元旦稽古会

平成二十年という節目の年が終わりました。この節目の年は誠にあわただしく暗い一年だったような気がします。燃料の高騰や政局の不安定、数多くの通り魔事件の発生、食品安全への不安、さらにアメリカで端を発した金融不安からの厳しい不景気風、それに伴う雇用不安これは全く私もみなさんも人ごとではありません。とりわけ働くものの立場からするといわゆる"派遣切り"はまさに社会を真っ暗闇とする所業のような気がします。本当にバッタバタと切られてしまった数多くの派遣労働者のみなさん。その刀の切れ味は新しい年を迎えた今でも衰える様子はなくさらに凶刀の様を呈しております。本当に切れる刀はきっと鞘に収まっているもの・・とこれは映画椿三十郎の一節である。

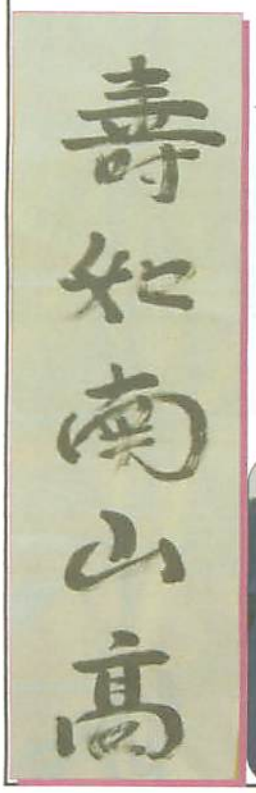
総勢で初素振りだ

不景気だからといとも簡単に離職を余儀なくさせられる派遣社員、社会の仕組みとしての今の労働者派遣制度に大きな問題が投げかけられたような気がします。やはり働く人たちも雇う側の人もそして社会全体で真剣に考えて行かなければならないのではないでしょうか。職住まいを失った派遣社員のみなさんが一日も早く立ち直れるような社会になって欲しいと思います。

さてお元日、このように吹きすさぶ社会の暗雲をよそにまことに穏やかなお元日でした。ちょっと寒かったですが。初日の出も随所で拝むことができたと思います。きっと支部の会員のみなさんの中でも初日の出の中で一念発起された人も数多くいらっしゃるのではないでしょうか。

今年も恒例の高崎支部元旦稽古会が武道館で開催されました。小学、中学、高校生達も加わり総勢八十名近くの稽古会となりました。この日ばかりは高崎武道館も狭いと感じます。でも芋洗いのように稽古する中で皆の熱気が増幅され剣道場らしくなるんですね。年齢を重ねる剣士のみなさんは今年も元旦に剣友と竹刀を交わることができたとまた大きな喜びに繋がるのに違いない。また若いみなさんと竹刀を交えることのよろこびもまたひとしお。文化の伝承は老若の暖かい交わりが大変必要です。その点剣道というものは素晴らしいものだと思います。そして今年も多くの親子剣士達が登城してくれた。角田父娘、長井父子、西山親子、根岸父子、潮田親子、それに吉井から齋藤父子が、殆ど我が子に相手にされていない筆者にとって誠にうらやましい限りです。なんでもそうですが、オヤの背中をみて子は育つといわれます。素直な気持ちで"ぼくも

伊勢崎愛武館からの小さなお客様



「目標をもって」と支部長挨拶

あたいもおらもお父さんやお母さんのように剣道やるんだ”なんて思われるだけでも親はジーンときちゃうものだ。こうして家庭の中でも剣道文化が確実に伝承されていくのでしょう。

恒例の元旦稽古会で、参加者におくる笠井副支部長先生の直筆の書が神棚のとなりに大きく張り出されました。今年の言葉は「壽如南山高」です。筆者にはぜんぜん読めませんでした。・・とそうのようなひとのために隣に解説書。読まなかった人のためにここでも記しておきましょう。読みは「壽は南山の高きが如し」寿は齢、南山はきっと中国の古い時代における崇高なお山であったのでしょう。齢を重ねることは南山の高さのようにすばらしいことと祝福する、こんな意味であるようです。大切なのはもう一つの意味です。そのように齢を重ねることは素晴らしいことですが合わせてといおうか齢を重ねるように徳も重ねて皆さんの手本となりなさい。との意味。年相応に中身がなっていない筆者には痛いことばです。でもまだまだ残りはあるのだから頑張りますよ。毎年記憶に残ることばを贈って下さる笠井副支部長先生に深く感謝いたします。

これあたいの紙刀よ

稽古終了後、橋本支部長先生が「私は今年の目標として”打つ剣道”を目指したい。みなさんもぜひ目標をもって頑張っていただきたい」と挨拶されました。今年は丑年、牛歩の如くゆっくりでも着実に、中国では牛は力強さの象徴だそうです。それにあやかり力強い剣道をみなさん目指していってください。

第二回 一級審査 ★61名★ お見事 全員合格

一月十八日第二回剣道一級審査会が高崎武道館で開催されました。

剣道一級は段位取得の登竜門です。あの八段の先生だってこのおいらも緊張しながら潜った御門です。いつ頃のことか思い出せないが、小学生や中学生に混じってこの高崎武道館で、大人のくせして超上がりながら受審したようなかすかな記憶があります。通年第二回目の審査は挑戦者が少ない傾向にあるのですが、今回は小学生十名中学生五十一名そして成人一名の計六十一名と大勢の挑戦でした。終了時間も正午をはるかに経過し、きっとみなさんお腹がへったことでしょう。審査が始まる前に橋本支部長先生が「正しく、大きく、元気の良い打突を」と強調されました。はじめて人前で剣道を演じる・・・これは上がりますよ。しかも決められた所作により振る舞わなくてはならないし自分が正しく振る舞っても相手が間違うと目の前真っ暗になって焦ってしまうよね。剣道は二人で行うもの。特にこのような審査事は決められた所作とそして相手と呼吸が合うことが大事です。これは八段位の審査だって同じ事です。第一回目の審査で残念ながら合格できなかった人も再挑戦です。審査団も審査基準を入念に確認する中で審査が粛々と進められました。胴を打つところ受けての胴が空かなかったり、小手を打つところ小手がなくなって空振りしたりと、呼吸が合わない場面が見られました。また女子中学生は全般的に発声に力強さが足りないようだ。虫の鳴いたような発声では剣道になりません。そんなで見てる方にもハラハラさせた人が多かったが・・・結果はいかようか？これはめでたい、全員合格だ。審査のあと飯塚副支部長先生による講評指導が行われ、そのあと一人一人に一級授与書がわたされました。これでまた私達の仲間が六十一名増えました。秋には多くの人が初段に挑戦することでしょう。そして将来は八段に挑戦する人がこの中に一人ふたりいるかも知れませんね。もっともっと剣道の深みにはまってしまうよう健闘を祈ります。

審査員の厳しい視線が注がれる

一級合格したらなんか堂々としている感じ

あ！あ！小手がないよ。からぶりだあ

■当面の行事予定

◇二月一日　初二段剣道形講習会・市武道館◇二月七日　八段受審者研修会・群馬武道館◇剣道六・七段受審者研修会・ぐんま武道館◇二月十一日　初二段審査会・審判講習会・市武道館◇二月二一日中島範士受賞記念祝賀会・前橋厚生年金会館◇二月二二日都道府県対抗県予選会　ぐんま武道館◇三月七日女子部近隣都県稽古会・高崎中央体育館◇三月十四日春季剣道講習会・ぐんま武道館◇三月十五日　三～五段　練，教士審査会　ぐんま武道館◇三月二八日～二九日東日本中学校選抜剣道大会・群馬アリーナ

■編集後記

長い間休刊してしまいました。柄にもなく男の更年期のようなものを罹い、およそ二年の間沈んだ日々を送ってしまいました。少し快方に向かっているようなので中身はどうあれ短くてもいいからと書いてみました。次はいつ発刊できるか判りませんが、好きな”たそがれ”いつまでも作り続けたいと思っております　広報　上條